

シンポジウム 10：施設看取り

演題名	介護施設における終末期ケアのあり方について
-----	-----------------------

概要

誰しにも平等に訪れる死に対し、自ら何所で、どのように終末を迎えるか、或は、家族としてどのように支援するのかについて考える事は、非常に重要な事で有りながら、その事を追求する事は現代社会において非常に悩ましいというのが実態でもあります。多くの人々は、可能ならば住み慣れた自宅で終末を迎えたいと考え乍らも、本人の思いとは裏腹に住宅環境、介護環境、介護者の意識等々、自宅での生活の継続が困難な為に、要介護高齢者の多くは、介護施設等に入所或は、病院入院中に終末を迎える事が多いのが実態であります。

しかし乍ら、現状として、介護施設における看取りの実態は、介護福祉施設、老人保健施設共に各々の施設の方針、取組みに寄る所が多く、また、都市部と郡部の相違、医療機関との連携状況、職員の意識等々、その背景は様々であり、介護施設が安心して終末を迎えられる場所となっていないというのも実態の一つであります。自宅での生活の継続、終末を迎える事がきわめて困難な現状において、本人、家族が望む最後が迎えられるような施設として、設備、人的配置といった環境整備に加え、終末期ケアに携わるスタッフの養成等々、介護施設としての終末期ケアの確立が必要不可欠で有ると考えます。

尚、本シンポジウムにおいて発言をさせて頂くにあたり、以下の点を柱として、施設、在宅という2極論ではなく、広く地域社会における大きな社会資源の一つとして介護施設の終末期ケアのあり方、スタッフのあり方について、要望も含め報告をさせて頂きたいと考えています。

- (1) 施設での看取りの現状とどのような課題を有しているのか
- (2) 介護施設の職員として、施設での看取りについてどのような意識を持っているか
- (3) 施設での終末を迎えるという事を本人はどのように考え、施設に何を望むのか
- (4) 施設での終末を迎えるという事を家族としてどのように考え、施設に対して何を望むのか
- (5) 在宅で終末を迎えられない背景は、 阻害要因は何所に有るのか
- (6) 介護施設として、施設で看取りを実践する為にどのような環境が求められるのか
- (7) 居宅の介護支援に携わる専門職と介護施設との連携のあり方